

令和3年度 第1回 ヨコハマ国際まちづくり推進委員会 会議録

日 時	令和3年7月2日（金）13時00分～15時00分
開 催 場 所	市庁舎共用会議室 みなと14
出 席 者	小野崎委員長、加藤委員、北川委員、小島委員、清水委員、陣委員、中里委員、バートン委員、細谷委員
欠 席 者	鬼頭委員、小池委員、坪谷委員、韓委員

議事（1） 委員長の選任等

【決定事項】

委員長として小野崎委員を選出。また、委員長職務代理者については、小野崎委員長からの指名により、小池委員に決定。

議事（2） 多文化共生関連施策について 令和2年度国際局事業報告

【主な意見】

- ・ YOKE や国際交流ラウンジによる多分共生推進に向けた取組は素晴らしいが、10万人を超える外国人のうちどれだけのの人に知られているのか疑問である。サービスを有効に活用いただけるよう、広報等を推進してほしい。
- ・ 国際交流ラウンジやYOKEの認知度向上への取組はぜひ実施していただきたい。
- ・ 令和元年度横浜市外国人意識調査では、日本語の不自由さを困りごととして回答した人が3割いる。外国人の中でも横浜での滞在年数によって日本語レベルが異なると思うので、日本語学習サポートの多様化を進めてほしい。
- ・ 日本語教室を各国際交流ラウンジで実施しているが、学習者のニーズはそれぞれ異なっている。コロナ禍ということもあるが、学習希望がありながら、希望する教室へ通えていない外国人もいるので、幅広い種類の教室や学校の支援を進めてほしい。
- ・ 日本語が一定程度話せていても、手続き等の書類の作成に困難を感じている外国人は多い。
- ・ 多文化共生の学校づくりにおいて、小学生のうちに多様な文化に触れられることは多文化共生の意識が醸成される良い機会である。一方、日本語能力の違いによる理由で、子ども同士のコミュニケーションがうまくできないと、学校がつまらない場所になってしまうという懸念もあるので、環境をうまく生かしてほしい。
- ・ 多様な子供たちが、日本語の不自由さ等から学校生活を重荷に感じてしまうことがあるかもしれない。教員への啓発等も引き続き注力していただきたい。
- ・ 外国人コミュニティのキーパーソンが、ネットワーク内に情報を発信しているケースがあり、そのような方による情報発信や口コミにより情報が伝わるということは重要である。しかし、キーパーソンに情報を届けることは難しく、まだうまく活用できていない現状があると思う。
- ・ 多数いる外国につながる児童・生徒が学校で情報を受け取って、家族へ伝えることは有効な広報手段なのではないか。
- ・ YOKE・国際交流ラウンジの事業利用者には、事業を評価している多くのリピーターがいると思う。認知度を上げることで更なる成果が上がると思う。
- ・ 日本文化に順応しようと努力する外国人が、日本人側の差別意識により、疎外感を感じてしまうケースがある。日本人側への啓発なども含め、総合的なケアが必要だと考える。
- ・ 中華街の飲食店もコロナで大きな影響を受けた。中華街ではこども食堂を実施するという話も出ているが、市では子どもたちに対するケアはどのようなものが実施されているのだろうか。
- ・ 日本人側の意識の改革をこれから行う必要があると思う。日本人が外国人を「支援する」だけでなく、対等な立場で、互いの文化・特性を認め合い、一般市民が多文化共生の推進に参加できる交流会等の場を作っていただきたい。

議事（3） 令和3年度国際局事業概要について

【主な意見】

- ・ 世界を目指す若者応援事業は今まで積み上げてきたノウハウと解決しなければならない課題がある。コロナに

よって空いてしまった2年間で空白とせず、事業を継続して行ってほしい。

- ・地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業では、親子日本語教室や子どもの多い地域の学校などでの日本語教育の実施はあるのか。
- ・国際交流ラウンジには、日本語学習ボランティアを希望の方がいらっしゃることがある。そういった方の活躍できる場があると良いと思う。

議事（4） 世界を目指す若者応援事業選考等部会

- ・選考等部会の部会員について決定（※当該部分の議論は非公開）。